

2022 年度  
(令和 4 年度)

事 業 報 告 書

学校法人 頌栄保育学院

## I 法人の概要 (2022年5月1日現在)

法人名	学校法人頌栄保育学院
所在地	兵庫県神戸市東灘区御影山手1丁目18番1号
電話	078-842-2541
ファックス	078-851-2154

### 1) 建学の精神

「神をわれらの主とあがめ、神の子イエス・キリストをわれらの救い主とする信仰に立ち、創設者アニー・L・ハウがもっとも信奉したフレーベルの教育理念を幼児の保育に生かした教育・研究・実践を通して、広く神と人にとに仕える。」

頌栄保育学院は、1889年アメリカン・ボードの教育宣教師アニー・L・ハウによって開設された、現存する日本最古の保育者養成校から始まっている。頌栄とはGLORYの訳で、神の栄光をほめたたえるという意味であり、子どもに仕える保育の業が、神の栄光を現すものであるようにとの祈りが込められた名称である。

### 2) 学校法人の沿革

- 1889年10月22日 日本で最初の私学の保育養成校として、頌栄保姆伝習所(現頌栄短期大学の前身)創設
- 1889年11月4日 頌栄幼稚園創設
- 1908年9月17日 兵庫県から幼稚園保姆無試験検定の指定
- 1935年6月16日 頌栄保育専攻学校に改組
- 1950年3月14日 頌栄短期大学の設置認可、保育科設置
- 1951年3月5日 学校法人頌栄保育学院を設置
- 1953年3月5日 厚生大臣から保姆資格試験の科目免除校の指定
- 1958年3月18日 保育専攻科(修学年限1年)の設置認可
- 1964年3月14日 厚生大臣から保姆養成所の認可(児童福祉施行令規定による)
- 1979年8月1日 学校法人頌栄保育学院の位置変更の認可
- 1980年4月1日 文部大臣、厚生大臣から定員増(学則変更)の認可(60人から100人)
- 1991年3月30日 文部大臣から寄附行為の変更認可を得て、頌栄人間福祉専門学校設立
- 1994年2月1日 頌栄短期大学専攻科(保育専攻)を学位授与機構が認定
- 2000年2月15日 学位授与機構から頌栄短期大学専攻科(保育専攻)の2年制が認定
- 2000年3月21日 頌栄短期大学保育専攻科 保育専攻に課程認定
- 2006年4月1日 文部科学大臣、厚生労働大臣から定員増(学則変更)の認可(100人から150人)
- 2009年11月30日 頌栄人間福祉専門学校 廃校
- 2014年10月25日 創立125周年記念式典を挙げる
- 2019年10月26日 創立130周年記念式典を挙げる
- 2021年4月1日 文部科学大臣、厚生労働大臣から定員減(学則変更)の認可(150人から125人)

3) 設置する学校の名称・所在地

頌栄短期大学 保育科・専攻科

兵庫県神戸市東灘区御影山手1丁目18番1号

頌栄幼稚園

兵庫県神戸市東灘区御影山手1丁目18番1号

4) 役員・評議員の概要

理事 12名

理事長	菅根 信彦	理事	西澤 他喜衛
副理事長	相澤 弘典	理事	林 典宏
理事	柳本 有二	理事	水野 雄二
理事	清水 嘉津子	理事	森 孝一
理事	佐藤 成美	理事	吉田 啓子
理事	須田 巖	理事	原 寛

監事 2名

監事	福田 修也	監事	渡邊 治夫
----	-------	----	-------

評議員 26名

評議員	相澤 弘典	評議員	竹田 契一
評議員	飯 謙	評議員	塚本 潤一
評議員	稲付 容子	評議員	西澤 他喜衛
評議員	井上 泉	評議員	原 寛
評議員	内海 満子	評議員	原田 壽美子
評議員	大塚 忍	評議員	東 弘彦
評議員	王子 静子	評議員	平野 英義
評議員	岡部 裕子	評議員	福井 恵子
評議員	小林 千代	評議員	山口 徹
評議員	佐藤 成美	評議員	山路 喜代子
評議員	澤 幸子	評議員	山本 俊正
評議員	菅根 信彦	評議員	横山 順一
評議員	関田 良	評議員	吉田 啓子

5) 教職員の概要

教職員数

頌栄短期大学

	男	女	合計
教員	3	11	14
(教授)	1	4	5
(准教授)	1	1	2
(講師)	1	5	6
(助教)	0	1	1
職員	3	7	10
合計	6	18	24

頌栄幼稚園

	男	女	合計
教諭	1	8	9
計	1	8	9

6) 短期大学・幼稚園の入学定員、学生・園児数の状況

頌栄短期大学

保育科

	入学定員	現員数		
		男	女	合計
保育科 1 年	125	3	96	99
保育科 2 年	125	2	99	101
計	収容定員 250	5	195	200

専攻科

	入学定員	現員数		
		男	女	合計
専攻科 1 年	20	2	8	10
専攻科 2 年	20	0	8	8
計	収容定員 40	2	16	18

頌栄幼稚園

	定員	園児数
年少	100	20
年中		26
年長		27
計	100	73

7) 卒業、修了者数

2023 年 3 月 頌栄短期大学 保育科卒業生数 94 名  
 専攻科（保育専攻）修了生数 8 名  
 頌栄幼稚園 第 134 回卒業園児数 28 名

8) 校地・校舎・設備等の状況

校地等 (㎡)

校地等	区分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する学校等の専用 (㎡)	計 (㎡)	基準面積 (㎡)	在籍学生一人当たりの面積 (㎡)	備考 (共有の状況等)
	校舎敷地	5,482	0	0	5,482	3,000	66.2	
	運動場用地	8,421	0	0	8,421			
	(小計)	13,903	0	0	13,903			
	その他	13,698	0	0	13,698			
	合計	27,601	0	0	27,601			

校舎 (㎡)

区分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する学校等の専用 (㎡)	計 (㎡)	基準面積 (㎡)	備考 (共有の状況等)
校舎	7,621	0	0	7,621	2,850	

教室等 (室)

講義室	演習室	実験実習室	情報処理実習室	語学学習施設
14	23	4	1	0

専任教員研究室 (室)

専任教員研究室
16

設備

図書館	面積 (㎡)	閲覧席数	蔵書冊数
	375 (事務室 徐)	56	108,756
体育館	面積 (㎡)	体育館以外の施設の概要	
	2,081	なし	

## II 頌栄短期大学の取組

### 1) キリスト教教育の取組

宗教部は、礼拝や宗教行事をはじめとする、本学のキリスト教主義保育者養成機関としての根幹を担う部署である。新型コロナウイルス感染症対策を講じながら宗教部では以下の活動を行った。

#### ① 礼拝について

前期は火曜日 5 講時に 2 会場で学年を A,B クラスに分けて実施した。神戸教会牧師、頌栄幼稚園の教員にも奨励を担当していただき、困難な状況の中でも恵まれた礼拝を守ることが出来た。後期からチャペルにおいて火曜日の 1 講時後に保育科 2 年生、水曜日 1 講時後に保育科 2 年生と専攻科が学年ごとに礼拝を守ることが出来た。

収穫感謝礼拝とクリスマス礼拝、卒業礼拝は、コロナ禍ではじめて全学がチャペルに集って礼拝を献げることが出来た。

礼拝の司会や奏楽を多くの学生たちが積極的に担うことで、共にキリスト教教育の根幹である礼拝を整えることが出来た。

## ②式典

入学式は、前年度同様、新入生を 2 クラスに分け、午前中に 2 回実施した。

卒業式は卒業生・修了生が全員チャペルに集い、3 年ぶりにご家族も参列して執り行うことが出来た。

## ③宗教行事

新入生が建学の精神に触れる春季キリスト教研修会は、日本基督教団神戸教会を会場にして、午前・午後の 2 回に分けて行った。母の日、花の日は分散した形で実施した。

秋季キリスト教研修会では、初日に収穫感謝礼拝を武庫之荘幼稚園園長の山本真司牧師を迎えて執り行った。収穫物ではなく保存の可能な食品を集めフードバンクを通して困窮する家庭を支える取り組みへとつなげた。専攻科学生による学生ボランティアの報告を受け、NPO みぎわ理事長 松原宏樹氏から障がいを持つ子どもの養子縁組の取り組みについて講演をいただいた。二日目は土井直彦氏（日本キリスト教団教師）を招いて 1 年生を対象にして頌栄の森をテーマにした講演会を実施した。瀬尾千絵氏（日本キリスト教団神戸教会オルガニスト）には、2 年生を対象としたパイプオルガンコンサートをしていただくことができた。

クリスマス礼拝は全学年で実施した。また、長く総合表現の授業の一環として行っていたページェントを宗教部の取り組みとして位置づけ、学生のボランティアによって実現することが出来た。聖歌隊とキャストが精一杯に表現し、クリスマスの喜びを分かちあうことが出来た。

## 2) 教学支援の取組

毎月第 4 火曜日に定例会を計 11 回、臨時部会を 7 回開催し、全て対面での会議を実施した。新型コロナウイルス感染予防対策を継続しつつ、原則、対面授業とし、補講等、一部を遠隔で行う形で、段階的に緩めながら、通常の学事運営に戻す計画で進めた。

- ① 前期は感染予防対策を強固にするため、前年度に引き続き学年別授業時間設定とし、各学年が、通学や休み時間、学食利用時間を重ねない運営とした。感染状況より判断し、後期は全学年、9 時開始に揃えた時間割とした。
- ② 複数科目の再履修で留年する学生、体調不良を訴える学生、理由が曖昧な状態で欠席回数の高む学生など、対応に苦慮する事例が急増し、体制の見直しに迫られた。
- ③ 遠隔授業の課題提出に関し、一部に倫理面の指導上の課題が見出され、昨年度策定したルール周知に努めた。
- ④ ポスト・コロナも見据え、対面授業となっても、補講やレポート課題において遠隔授業システム「Pholly」の活用を推奨し、罹患や濃厚接触学生へのリモート授業「Zoom」活用を行った。

- ⑤ 専攻科2年生の内部進学者は「基礎演習」「現代保育・教育問題演習」及び専攻科「保育研究演習」「修士研究」のつながりが完了した初の学年となり、その学修成果が頌栄の独自性を強化するための手がかりとなった。
- ⑥ 実施8年目の「総合表現」は、聖劇を有志による実施としたため、演劇コースを合奏コースに変更して行った。
- ⑦ 高大接続、広報、質の向上等、多角的な効果を見込み、入学前教育の見直しを図った。受験生や保護者にもイメージしやすいよう「入学前プログラム」として、ピアノの個人レッスンを希望者に提供することを加えるなど、入試課題とのバランスにも配慮した。
- ⑧ 短大設置基準の改正に伴う本学の検討事項の整理を行い、学則変更案を整備した。
- ⑨ 基礎力測定「GPS アカデミック」を実施。アセスメントツールとしての活用を検討。
- ⑩ 昨年度に引き続き「高等教育段階の教育費負担軽減新制度」への対応を学生支援部との連携のもとで実施。成績の厳格な管理体制について、整備を継続している。
- ⑪ アフター・コロナに向かう状況を鑑みた2023年度版『シラバス』『学生便覧』『頌栄のしおり（保証人対象の説明冊子）』『教務案内』を作成した。

### 3) 学生支援の主な取組

学生支援部の担当する主な分掌は、学生の諸活動および福利厚生に関すること、また奨学金に関することである。今年度は定例部会12回のほか、サイボウズ上でのスレッドを活用し、奨学金申請や学生の活動に支障をきたさないよう部署内の迅速な情報共有と対応に努めた。

原則対面授業となり、感染症対策に留意しながら学生生活全般の支援を進めた。感染症対策や学生生活のさまざまな注意喚起については、学内への掲示やHP在学連絡、口頭での説明を実施した。食堂も通常営業を行った。

#### (1) 学生の活動について

学生が参画する活動であるクラブ・同好会活動では、学外での催しに参加するなど、活動範囲を広げている。また、自治会活動についても制限のあるなかで、学生支援部教員や学生支援課員の支援やアドバイスのもと、大学祭（頌栄祭）実施に向けての検討を進め、同窓会と幼稚園とともに開催することができた。クリスマス祝会も実施し、学内での活動が再開されつつある。

次年度も自治会運営をはじめ、学生が主体的に参画する自治会やクラブ・同好会活動の支援を進めていきたい。

#### (2) 休養室・学生相談室による合理的配慮を要する学生への支援体制について

休養室は学生の登校に合わせた開室を行った。学生相談室は、開室での相談を基本としつつ、必要に応じ電話相談も実施した。

学生相談室と休養室および教務部による学生相談室会議を実施し、学生の様子や相談室の利用状況についての共有を図った。

休養室には、心の問題を抱えた学生など体調不良以外の来室もあり、学生相談室には、学生のさまざまな状況を踏まえた対応等、教職員からの相談も増えている。

また、2024年度より実施予定である合理的配慮を要する学生への支援体制について、**規程等**の準備を進めた。次年度も学生への手引きの作成など、継続して実施に向けて進めていく。

### (3) 奨学金について

奨学金に関しては、日本学生支援機構の奨学金制度（定期、緊急・応急）に加え、一般財団法人生命保険協会保育士養成給付型奨学金、本学独自の岡松枝記念給付奨学金、一般財団法人報国積善会奨学金（岸本奨学金）等の募集を実施した。申請者に対して面談等を実施し、運営した。新型コロナウイルス感染症の影響に伴う家計急変に対応する「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」についても申請者に対する書類審査及び面談等を実施し、申請を行った。一般財団法人報国積善会より、2022年度（単年度）の「一般財団法人報国積善会学生支援給付金」の申し出を受け、申請者に対する面接等を新たに実施、運営を行った。

また、日本基督教団神戸教会給付奨学金については、宗教部と合同で面談を実施し、運営を継続している。神戸市の自治体事業として実施されている保育士修学資金貸付事業も、学内の推薦基準に照らして適切に推薦を行った。さらに、「岡松枝記念書籍助成（仮称）」の実施に向けて準備を行った。

いずれの奨学金も学生への経済的支援として、次年度も迅速かつ適切に実施していく。

### (4) その他

学則 64 条に関わる道路交通法違反をした学生について、聞き取り等の対応を行い、内省プログラムを実施した。

## 4) 進路支援の取組

### ①「進路ガイダンス」について

2022年度は「キャリアへのアプローチⅠ」および「キャリアへのアプローチⅡ」の内容と合わせて検討を進め、調整を図ったうえで進路ガイダンスを計画し、実施した。就職試験対策、模擬試験、模擬面接やキリスト教主義園内定者へのガイダンスなど、重要な内容を精選するとともに、さまざまな進路選択に合わせたプログラムを実施している。

また、進路支援室で作成し、学生に配布している『就職の手引き』を「進路ガイダンス」と「キャリアへのアプローチⅠ・Ⅱ」のテキストとして活用し、統一感をもって進めている。次年度も当該年度の学生にとって適切なものとなるよう、時期や内容等を検討して実施していく。

### ②進路資料室等での情報提供について

進路資料室には過去の求人状況、受験報告書、就職関係書籍等の資料も揃え、またパソコンの設置により就職情報を検索できる環境を整えている。また、求人情報や就職フェア等の情報提供を掲示で行った。さらに、pholly システムを利用して、求人票や就職フェアの情報を Web 上での閲覧ができる状態を継続し、確実な情報提供を心掛けた。

自治体や団体単位で開催される保育職の就職フェアについても進路決定の重要な機会として位置づけ、1 年次から意識できるよう、「進路ガイダンス」や「キャリアへのアプローチ」時にも情報を伝えた他、ボランティア・アルバイト等による保育体験の案内についても掲示版で情報提供を行った。

### ③進路選択と就職状況について

進路状況は 2022 年度も 100%の保育職就職率を達成している。ただし、保育職への熱意や就職先への志望動機が低い状態のまま就職活動が進まない学生や早くに就職先を決めようとして比較検討をしない学生が若干みられ、ミスマッチングにつながりやすい状況もうまれ

ている。また、保育職に向けて課題のある学生に対する支援のあり方も検討課題となってきた。

今年度は就職後1年未満の中途退職者もあり、卒業生と就職した園への対応を行った。ミスマッチングを防ぐため、「進路ガイダンス」や「キャリアへのアプローチ」をはじめ、さまざまな機会を通じて情報提供を行っているが、就職試験先の決定までに志望動機や就職への意識を明確にしていく丁寧な取り組みが一層必要となっており、教職員の意識の共有を図ることが不可欠である。

### (3) 卒業生の支援について

新卒業生の就職先である保育現場は全て教職員が訪問し、訪問記録をとっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、訪問時期が例年7月に行っている新卒業生懇談会は、ZOOMで開催した前年度とは異なり、2022年度は2部制に分けて対面で開催した。来校した卒業生はもちろん、卒業生同士のネットワークから当日来校していない同級生の様子を聞き、担当教員が連絡を取って相談に乗っている卒業生もあり、1年目の卒業生支援として大切な機会となっている。

顕栄祭では「卒業生のつどい」としてHPに案内を掲載しており、卒業後数年の卒業生が来校し、近況報告や再就職について相談する機会ともなっている。顕栄祭以外でも退職・再就職の相談のための来校や問い合わせがあり、卒業生の相談窓口や再就職斡旋としての役割を担っている。

### (4) 学外の諸機関との連携等について

兵庫県内私立短期大学就職研究会に加入し、意見交換・情報収集を行って進路支援に活かしている。また、参加可能な幼稚園・保育園の各団体との懇談会等にも出席して、保育現場との関係を深めながら、卒業生の様子や園の求める保育者像などを伺う機会となっている。今後も継続して会に出席し、情報収集を図っていく。

## 5) 入試広報の取組

### 入試の取組

125名の定員確保を目指したが、2023年度入学予定者数は、72名と2022年度より27名減という極めて厳しい結果となった。総合型選抜ではⅠ・Ⅱ期（エントリー型）と、Ⅲ・Ⅳ期（出願型）の4期を設けたが、合格者は計63名と2022年度までの3年間と比して15～20名程度減少した。キリスト者入試は0名、総合型選抜に含めたファミリー入試は18名の受験があった。ファミリー受験者は昨年8名から大幅に増えており、入学予定者の1/4を占める。今後も、同窓会と連携して入学者につなげていきたい層である。

学校推薦型選抜Ⅰ期2名、Ⅱ期1名、指定校推薦6名は、20年度を下回った21年度・22年度よりさらに減少しており、一般選抜、社会人・学士取得見込み者入試はいずれも0名であった。以前にも増して、総合型選抜が受験の中心となっており、募集要項の完成時期やOCなどの広報活動の時期を6月のエントリー開始に対応させ、早める必要がある。

## 広報活動の取組

広報については、昨年度と同様、本学の知名度を上げ資料請求数を増やすことを第一とした。電車・バス等交通広告、オープンキャンパス（以下 OC）、保育イベント（YMCA と共同開催）、高等学校教員対象説明会（本学会場、姫路会場）は回数・内容等は 21 年度と同様に実施した。入試広報戦略の抜本的見直しの一環で、費用対効果の観点から、進学ガイダンスの実施を縮減、高校内・会場での進学ガイダンス等の参加が昨年度 126 件から 91 件に、模擬授業が 11 件から 2 件に減少している。2023 年度入試は、本学独自の広報活動として「連携授業」（連携校との直接的な関係の中で提供する保育に関する講義）により注力した。しかし、「連携授業」は 14 件増加したが、コロナ禍で中止・延期も多く、高校ガイダンスの減少分を補うほどではなかった。高校生に直接、本学をアピールする機会が減少したことが、志願者減の原因ではないかと考察している。

資料請求数（兵庫県内高校 3 年生）は 2021 年度 786 名、2022 年度 768 名に対し 2023 年度 809 名とほぼ横ばいである。またその内、リクルートからの資料請求数は 396 名（2021 年度 472 名、2022 年度 434 名）とやや減少している。志願者数の増減に直接影響する OC 参加者数は、2020 年度 251 名、2021 年度 118 名（コロナの影響のため参考値）に対し、22 年度は計 192 名、23 年度計 129 名であった。高校生に直接本学をアピールする機会である進学ガイダンスの減少が、志願者数減少の一因である可能性もあるが、本学を取り巻く環境を踏まえ、高校との交流や入学者アンケートの分析等を通じて実態を把握し、本学教育の良さや強みを発信する媒体として、何が効果的であるかを多面的に検討する必要がある。

## 6) 研究、FD・SD 等の取組

教員の研究成果を発表する機会として、『頌栄短期大学研究紀要』第 47 号、『頌栄短期大学保育者養成教育実践論叢』10 号、11 号を発刊した。

### ① FD 研修会について

- 第 1 回「表現系科目担当者研修」 8 月 10 日（水）3 名
- 第 2 回「領域と指導法関連科目担当者研修」8 月 30 日（火）7 名
- 第 3 回「ゼミ関連授業について」9 月 20 日（火）9 名
- 第 4 回「23 年度非常勤講師懇談会」2 月 4 日（土）12 名＋教務教職員 5 名
- 第 5 回「23 年度シラバス作成について・基礎演習と担当制について」12 月 7 日（水）6 名

### ② SD 研修会について

- 第 1 回「認証評価に向けた準備と中長期計画の策定～全学が一丸となって改革を進めるために～」6 月 20 日（月）17 名（理事監事 8 名、教員 6 名、職員 3 名）参加 Zoom 講演：篠田道夫氏（進研アド高坂氏）
- 第 2 回「学校名について」7 月 27 日（水）教員 13 名、職員 10 名
- 第 3 回「認証評価に関する中間報告と意見交換」8 月 23 日（火）教員 11 名職員 9 名
- 第 4 回「ハラスメントについて」8 月 24 日（水）教員 10 名、職員 7 名、幼稚園 3 名
- 第 5 回「学生対応について Vol.1 課題の共有」9 月 20 日（火）教員 13 名、職員 6 名
- 第 6 回「頌栄保育学院の将来構想を共に考えるために」10 月 26 日（水）教員 8 名、職員 4 名、幼稚園 1 名
- 第 7 回「育てたい学生像～成長の軌跡をたどって～」11 月 29 日（火）教員 11 名、職員 5 名、幼稚園 2 名

- ③ SD と FD の希望調査  
部署ごとに希望の研修テーマを募り、SD は 5 部署から 18 テーマ、FD は 4 部署から 6 テーマが提示された。
- ④ 授業相互参観：11 月 28 日（月）～12 月 9 日（金）に実施。

#### 7) 地域連携等の取組

##### ① 行政との連携

ユースプラザ KOBE・EAST(神戸市)、あかしこども広場 AKASHI ユーススペース(明石市)との連携で「高校生保育講座」を保育職に関心のある高校生 7 名が保育体験を行った。事前講義「対象理解」「保育の仕事とは」2 回と頌栄幼稚園での実習 5 日間行った。それぞれの施設の運営主体である神戸 YMCA の協力に感謝である。

2021 年度は新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった「夏休みこどもいろいろ体験スクール」も 3 年ぶりに開催できた。当日は吉岡千尋専任講師が担当し、小学生の子どもたちとステンドグラスを製作した。

東灘区との連携を引き続き行い、区役所ホールにあるチラシ配置スペース、動画配信スペースを活用した。

##### ② 1995 年阪神淡路大震災を忘れない

2023 年 1 月 14 日、「1995 年阪神淡路大震災を忘れない」ハンドベルメモリアルコンサートを 3 年ぶりに開催した。開催後に振り返りを行ってベル・グローリーの継続の意向を確認し、実施に関しての詳細を共有した。ハンドベルクワイアーの学生にとっても、阿部恩元学長の指導を受け、OG の演奏から学ぶよい経験となった。

##### ③ パイプオルガン演奏

頌栄祭も 3 年ぶりの開催となり、宗教部との連携により、頌栄祭と同日に開催することができた。

##### ④ 点火祭

クリスマスツリー点火祭を頌栄短期大学・頌栄幼稚園教職員で行った。コロナ対策で昨年は見合わせた学生および園児の参加を実現し、学生聖歌隊の歌声を聞くこともできた。

##### ⑤ 学生の参加

頌栄短期大学が加盟している一般社団法人「大学コンソーシアムひょうご神戸」学生災害ボランティアネットワーク事業に参加した専攻科の学生 3 名が、これまでの活動について創立記念礼拝の場で報告・紹介を行った。

### III 頌栄幼稚園の取組

#### 主な行事

4 月	11 始業式・12 入園式・11～15 家庭訪問・14 クラス懇談(年中)・15 クラス懇談(年長年少)・18 年少身体測定・19 イースター礼拝・20 年長たけのこ掘り・21 年中身体測定・22 年長身体測定 26 誕生会
5 月	9 年中身体測定・10 年少身体測定・11 年長身体測定・年中遠足・年長運動あそび・12 年少親子遠足・13 母の日礼拝・17 誕生会・18 年中参観・

	年長いちご狩り・20年長参観・25年長ペンテコステ礼拝(神戸教会)・26年中年少ペンテコステ礼拝(ハウチャペル)・28新一年生お里帰り
6月	1耳鼻科健診・年長身体測定・2避難訓練(火災)・3親子学級(大塚先生)・5年少身体測定・7年中身体測定・8年長年中運動あそび・9眼科健診・10花の日こどもの日礼拝・11親子学級(竹馬づくり)・15年少身体測定・16年長身体測定・歯科健診・20内科健診・21誕生会・27親子学級(YMCAワークショップ)
7月	1年中ボディペインティング・5親子学級(母の会公演会)・7親子学級(七夕お茶会)・11避難訓練(大雨・引き渡し)・11~15個別懇談・12誕生会・15親子学級(土井先生)・20終業式・21~22年長お泊り保育・27~8/2高校生保育講座・28夏期保育①・29夏期保育②
8月	1夏期保育③・2夏期保育④・29夏期保育⑤・30夏期保育⑥・誕生会
9月	1始業式・2親子学級(柳本先生)・6年少身体測定・7年中身体測定・運動あそび・8年長身体測定・13誕生会・14入園説明会・15運動あそび・16敬老の日礼拝・26年少わらべうた・28運動あそび・30入園願書受付面接
10月	1親子学級(親子運動あそび)・7年少わらべうた・15あそびまつり・18年少身体測定・19年中身体測定・20年長身体測定・25誕生会・28ひよこぐみ願書受付面接
11月	4創立記念礼拝・親子学級(子どもセミナー)・8お芋堀り・避難訓練(不審者)・年長身体測定・9年中身体測定・内科健診・10年少身体測定・11収穫感謝礼拝・14アドベント礼拝①・15誕生会・17焼き芋大会・19頌栄祭・21年少わらべうた・22アドベント礼拝②・点火祭・25親子学級(発酵ごはんの会)・29アドベント礼拝③
12月	1年長身体測定・2年中身体測定・5年少身体測定・6アドベント礼拝④・8年長年中クリスマス礼拝・9年少クリスマス礼拝・12~15個別懇談・16終業式
1月	10始業式・11親子学級(おもちつき)・12年中身体測定・13親子学級(土井先生)・新入園児一日入園・14親子学級(お正月あそび)・17メモリアル礼拝・避難訓練(地震)・18親子学級(岡橋先生)・年少身体測定・19年長身体測定・20年少わらべうた・24誕生会・25YMCA国際協力基金
2月	10生活発表会・15親子学級(お味噌作り)・年少身体測定・16年長身体測定・17年中身体測定・20ひよこ入会説明会・21誕生会・27年長交通安全教室・28避難訓練(火災)
3月	1年長年少身体測定・2年中身体測定・3園内ひなまつり・6年少クラス懇談・7誕生会・8年長クラス懇談・9年中クラス懇談・10お別れ遠足・13卒業礼拝・16第134回卒業式・17修了式

\*年間通して預かり保育(春夏冬期休業中も含む)を実施

#### IV 施設・設備の取組

- ①頌栄の森入り口階段の設置  
(実施期間) 2022年6月  
(内容) D棟裏の森の入り口から安全に入れるように会談を設置した。
- ②幼稚園トイレ改修  
(実施期間) 2022年8-9月  
(内容) 年長、年中組用のトイレを改修した。
- ③A棟屋上防水補修工事  
(実施期間) 2022年9月  
(内容) A棟入り口付近で雨漏りが発生したため補修工事を行った。
- ④水銀灯交換  
(実施期間) 2022年9月  
(内容) 正門から上る階段に設置されている水銀灯が破損したため交換した。
- ⑤B棟屋上にブースター設置  
(実施期間) 2022年11月  
(内容) 近隣のテレビ受信障害改善のためブースターを更新した。
- ⑥食堂エアコン入れ替え  
(実施期間) 2023年2月  
(内容) 食堂のエアコンが老朽化のために入れ替えた。
- ⑦短大印刷室のカラー印刷機購入  
(実施期間) 2023年3月  
(内容) 授業充実と作業効率化のために新たにカラー印刷機を購入した。
- ⑧ベンチ購入  
(実施期間) 2023年3月  
(内容) 学生の憩いの場となるベンチを3台購入した。

#### VI 財務状況

2022年度決算については、監事監査と公認会計士監査を経て2023年5月30日の理事会で承認を得る見通しである。

人件費支出については、2020年度、21年度に続き、削減傾向にある。2022年度、教職員10名の退職を受けて、退職金支出21百万円があり、これを除く実質人件費は260百万円と前年比約16百万円の削減を実現。今後、収容定員減少に伴い更なる人件費圧縮を目指す一方で、適正配置、人事制度の適正化、職場環境整備等の検討を通じて、維持可能な人件費水準を探りたい。経費支出については、2020年度、21年度とほぼ同水準(161百万円から167百万円)で推移している。しかし、近年エネルギー価格の高騰を受け、光熱水費が上昇傾向にある。また、全経費の4割強を占める手数料支出は、約71百万円と高水準が続いている。中でも、アウトソーシング(業務委託)関連支出については、業務合理化を通じて、圧縮を図りたい。施設・設備支出については、長年に亘って修繕計画の検討と実施が不十分であった結果、施設・設備の老朽化が進み、近年の異常気象による強風豪雨被害など想定外の支出が発生した。

2022年度収支については、2023年度短大入学者の減少に伴う前受金収入の減少、業務委託費等固定的経費の高止まり、施設・設備老朽化による突発的支出により、資金収支は40百万円弱悪化した。資金繰リスク回避のため、特定資金取崩しを行い資金安定化を図る。他方、経営企画室において、今後の財政再建の基底となる中期経営計画、ビジョンの策定を目指し、協議を開始した。私学事業団および外部専門家とも連携し、成案を策定し、2023年度内に機関決定したい。